

まえがき

東京女子医科大学総合医科学研究所は、総合医科学研究所規程によると、「本学における研究教育活動を促進し、本学の特色を生かした研究領域の構築および人材育成を推進する」施設である。この意味において本紀要を通覧すると、基礎から臨床に至る幅広い分野の研究が継続して展開していることがわかり、総研を利用するすべての研究者に、まずは敬意を表したい。

医学生物学の研究は、科学を進歩させると同時に、医療に貢献し、社会全体を幸福にするものであってほしいと世界の人々は期待しており、私たちはその期待に答える責務がある。また、本学の建学の精神にある「医学の蘊奥を究め」ることは、果てのない長い道のりを巡る至難の目標である。全ての研究者は、自分の研究が、その長い道程のどこに位置するものであるかを常に意識して、方向性を失うことなく精進していただくことを望みたい。

やや辛口の意見を言わせていただくとすると、論文としての研究成果が十分に出せていない領域があることや、「本学の特徴を生かした研究領域の構築」という観点においては、物足りない感が否めない。特に、本学の強みは何であるかを熟慮し、それを最大限に利用した研究が展開されることを強く望むものである。

令和7年3月

学長
山中 寿

令和3年度、本学では長年独立して存在していた総合研究所と統合医科学研究所が統合され、新たに総合医科学研究所（総研）が誕生した。さらに令和5年度には巴棟の増築部分が完成し、遂に研究コアファシリティとしての基盤が整ったことになる。本学には希少難病疾患に関する貴重な臨床データや長年積み重ねてきた膨大な臨床データが蓄積されているものの、それらを有効に活用し、病態解明や病気の予防や治療法の開発へとつなげなければ、医科大学としての使命を十分に果たしたとは言えない。一方で、「医師の働き方改革」が施行され、大学病院で働く臨床教員が研究に長時間を割くことが困難な状況となっている。このような状況の中で、総研の物理的・人的な研究支援はますます重要となってくるであろう。総研は、共同利用施設、解析サービス部門、研究部門からなる共同利用機関であり、こうした臨床現場の実情に対応する役割が求められる。これからも真に教員のニーズに応える研究支援機関として、さらなる進化を遂げてほしい。また、学内のニーズに基づき、機関レベルでの購入・保守管理が必要な高額機器については、公的補助金の獲得など戦略的施策を期待したい。研究部門に関しては、自身の研究レベルの向上をめざすとともに、一層の利用者への支援を行い、本学全体の研究推進に尽力することを願っている。

令和7年3月

研究部門担当理事
宮田 麻理子